

生田キャンパスアトリウムに登場

「岡本太郎」 写真で紹介 謎解きも



川崎市岡本太郎美術館は生田キャンパスのすぐ近くにありながら、足を運ぶ専大生はそれほど多くありません。近くこれほど立派な美術館があるのに、利用しないのはもったいないと、大学生に岡本太郎美術館を知ってもらおうにどうしたらいいかを考えました。

プロジェクトメンバーからはワークショップ開

来場者に展示の説明をする石井さん(右端)………

川崎市岡本太郎美術館は生田キャンパスのすぐ近くにありながら、足を運ぶ専大生はそれほど多くありません。近くこれほど立派な美術館があるのに、利用しないのはもったいないと、大学生に岡本太郎美術館を知ってもらおうにどうしたらいいかを考えました。

プロジェクトメンバーからはワークショップ開



この展示会をより多くの専大生が岡本太郎作品の魅力を知り、ぜひ、同館に足を運んでほしいです。

この展示会をより多くの専大生が岡本太郎作品の魅力を知り、ぜひ、同館に足を運んでほしいです。

また、同行した(株)興計測代表取締役の五十嵐崇さんとともに、持参した金型など製造業の部品や、高津区の中小製造業が開発した製品を見せ、町工場の技術力や地域での役割を紹介した。

「町工場の人たちは発明家みたい」「一つのことに取り組む姿は素晴らしい。ほくもそんな人間になりたい」「紙芝居が面白かった。今日の話から高津区をもっといい町にしたい」という気持ちを感じた。

町工場の魅力紹介



吹奏楽研究会(廣田啓介代表・法4)によるミニコンサートが11月25日、生田キャンパスアトリウムであった。穏やか

吹奏楽研究会は12月28日(水)、第53回定期演奏会を東京都新宿文化センターで開催する。17時開場、17時30分開演。入場無料。

作品の魅力伝えた

プロジェクトリーダー 石井 一幹(ネット情報3)

川崎の産業を研究テーマの一つにしている経済学部・遠山浩ゼミの学生が小学校で出張授業を行い、町工場の魅力を紹介した。

指導の遠山教授は、地域の工業と住民が共生してまちづくりを考える川崎市高津区の「高津も」のまちづくり会 会長を務めており、「小学生が社会科見学で高津区の工場などを訪ねる前に、遠山ゼミ生の話を聞かせたい」という区からの要請を受けた。

また、同行した(株)興計測代表取締役の五十嵐崇さんとともに、持参した金型など製造業の部品や、高津区の中小製造業が開発した製品を見せ、町工場の技術力や地域での役割を紹介した。

「町工場の人たちは発明家みたい」「一つのことに取り組む姿は素晴らしい。ほくもそんな人間になりたい」「紙芝居が面白かった。今日の話から高津区をもっといい町にしたい」という気持ちを感じた。

初に登場した女子グループはサックス五重奏で「ニメソング」や「青い珊瑚礁」を披露。続いてのグループは、トランペットやホルンなど金管楽器にドラムを加えた十重奏で、沖縄民謡をアレンジした楽曲など2曲を演奏。華々しいパフォーマンスで学生らを魅了した。

寒い時期に心が温まる曲を選んだという廣田代表は「聴衆との距離が近く、楽しんで演奏できた。吹奏楽に関心のない人にも興味を持ってもらえたのでは」と話す。



代表作の一つ『明日の神話』の迫力に足を止め、鑑賞する学生たち

会場入り口に設置された岡本太郎の等身大パネルが来場者を歓迎。岡本太郎の「明日の神話」など絵画6点、「太陽の塔」「月の顔」など立体・彫刻5点の写真を展示、さらに岡本太郎の著書『岡本太郎に出会う旅』から抜粋した文章を展示した。

会場の入り口に設置された岡本太郎の等身大パネルが来場者を歓迎。岡本太郎の「明日の神話」など絵画6点、「太陽の塔」「月の顔」など立体・彫刻5点の写真を展示、さらに岡本太郎の著書『岡本太郎に出会う旅』から抜粋した文章を展示した。

インドネシアで活躍する映画監督の特別講演会が11月2日、生田キャンパスで開かれた。

講演したのはアンガ・ドゥイマス・サンコ監督(31歳)。第29回東京国際映画祭(10月25日〜11月3日)のCROSS CUT ASI A部門でのインドネシア映画特集(国際交流基金アジアセンター主催)のために来日した。同センターが「日本の若い世代に同国の映画や文化を知ってほしい」と企画。インドネ



質問に答えるアンガ監督(中央)。左がリオさん、右がチョコさん

年に監督デビュー。映画監督であり自ら資金集めをするプロデューサーでもある。同国で大ヒットした「モルッカの光」(14年、インドネシア映画祭最優秀作品賞)、今年度の東京国際映画祭で上映し日本公開が決まった『珈琲哲学 恋と人生の味方』(仮題) (15年)、来年の米アカデミー外国語映画賞インドネシア代表作品となる『ラハからの手紙』(16年)などがある。

当日は「珈琲哲学」に出演した人気俳優、チョコ・ジェリコさんとリオ・ダントさんも一緒に来

学。3氏が登場すると約100人の会場は大拍手、華やかな雰囲気になった。土屋昌明経済学部教授(中国語と連池隆)が映画を始めた年齢に近い。今どんなことをやっておくべきか」との質問に、「自分が何をやりたのかを探ることが大事。私は世界一の映画監督になることが夢。そこに向かって進んでいる」と答えた。

講演を聴いたマレーシア留学生ジェームス・ム・シューアさん(経済学3)は「今までハリウッド映画ばかり見てきたがインドネシア映画の水準の高さを知った。ぜひ映画館で見たい」と話した。

ネット情報・小林プロジェクト企画

川崎市岡本太郎美術館「解き明かす！」が11月15日から18日まで、生田キャンパス9号館アトリウムで開催され、約400人の学生が来場した。

企画・運営したのはネットワーク情報学部の小林隆プロジェクトの3年次生。同館に若い来場者を増やすことを目標に活動している。6月に同館で実施した子ども向けのワークショップに続き、今回は専大生をターゲットにした展示会を考えた。

会場の入り口に設置された岡本太郎の等身大パネルが来場者を歓迎。岡本太郎の「明日の神話」など絵画6点、「太陽の塔」「月の顔」など立体・彫刻5点の写真を展示、さらに岡本太郎の著書『岡本太郎に出会う旅』から抜粋した文章を展示した。

会場の入り口に設置された岡本太郎の等身大パネルが来場者を歓迎。岡本太郎の「明日の神話」など絵画6点、「太陽の塔」「月の顔」など立体・彫刻5点の写真を展示、さらに岡本太郎の著書『岡本太郎に出会う旅』から抜粋した文章を展示した。

人気俳優2人とともに来学し講演

インドネシア映画の「新世代」アンガ監督

アンガさんはインドネシア大在学中の2006

「私たちはアンガ監督が映画を始めた年齢に近い。今どんなことをやっておくべきか」との質問に、「自分が何をやりたのかを探ることが大事。私は世界一の映画監督になることが夢。そこに向かって進んでいる」と答えた。

講演を聴いたマレーシア留学生ジェームス・ム・シューアさん(経済学3)は「今までハリウッド映画ばかり見てきたがインドネシア映画の水準の高さを知った。ぜひ映画館で見たい」と話した。